

広報 いずも

第22号 平成18年(2006)2月9日発行

田儀櫻井家たたら製鉄遺跡が国史跡指定



炉の跡などが良好な状態で残る大鍛冶屋跡

高さ約15mの崖面に5段の石垣が組み上げられた田儀櫻井家本宅跡。米庫・衣装庫など多くの建物も存在していたと伝えられています



昭和58年に県指定文化財に指定された朝日たたら跡の内部

近世のたたら製鉄の一貫した工程を把握することができる『田儀櫻井家たたら製鉄遺跡』(多伎町奥田儀)の遺跡が1月26日、近世たたら遺跡として国内2例目の国史跡に指定されました。田儀櫻井家は近世出雲を代表する鉄師で、江戸初期から明治中頃まで約250年間、奥田儀の宮本地区に本拠を置いて栄えました。遺跡は『宮本鍛冶山内遺跡』と『朝日たたら跡』(佐田町高津屋)からなっています。宮本鍛冶山内遺跡には本宅跡、智光院、歴代当主の墓地、

大鍛冶場、山内集落、金屋子神社、山内の人々の墓地などが、古文書・建造物・石造物とともに一括して良好な状態で保存されています。朝日たたら跡は精錬炉全体が極めてよく残り、近世高殿たたら地下構造を実際に見学することができます。これで、市内の国指定史跡は大念寺古墳、築山古墳、地藏山古墳、宝塚古墳、西谷墳墓群、上島古墳、猪目洞窟遺物包含層と合わせて8つとなります。見学・おたずねは文化財課

(TEL) 26893()まで。

目次

食育のまちづくり	2~3
男女共同参画	4~7
いずもの話題	12
お知らせコーナー	13~15